

総務委員会協議会

期日:令和2年9月1日

場所:第2委員会室

1 開 会

2 委員長挨拶

3 副市長挨拶

4 協議・報告事項

(1) 令和元年度一般廃棄物の排出状況について(環境課)

【資料No.1】

(2) 議会報告会について

【資料No.2】

5 その他

6 閉 会

1. 家庭系ごみの収集量(実績値)の推移

年度別ごみ量の推移 (家庭系一般廃棄物)

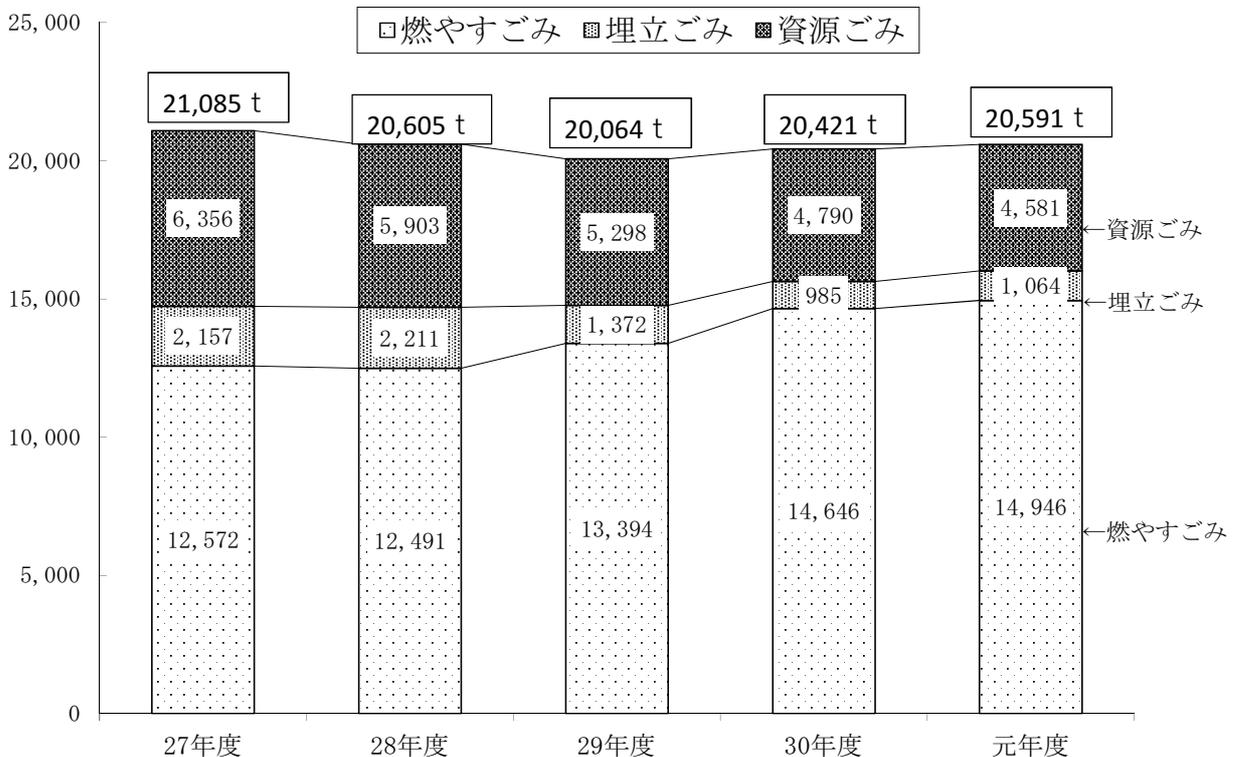
項目		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	対前年度 比率 %	(参考) R01/H28	
人口 (9月末時点住民基本台帳人口+外国人登録人口) *		人	104,246	103,624	102,744	101,834	100,727	-		
ごみの収集量 (家庭系一般廃棄物) (C) (市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	計画値	t/年	20,896	20,562	20,086	19,575	19,151	-		
	実績値	t/年	21,085	20,605	20,064	20,421	20,591	100.8	99.9%	
処分ごみ (A)	実績値	t/年	14,729	14,702	14,766	15,631	16,010	102.4	108.9%	
	燃やすごみ	計画値	t/年	11,538	11,393	13,041	13,396	13,157	-	
		実績値	t/年	12,572	12,491	13,394	14,646	14,946	102.0	119.7%
	埋立ごみ	計画値	t/年	2,030	1,936	1,639	1,184	1,188	-	
		実績値	t/年	2,157	2,211	1,372	985	1,064	108.0	48.1%
	うち火災ごみ	実績値	t/年	120	9	0	0	33	-	
	資源ごみ (B)	計画値	t/年	7,328	7,233	5,406	4,995	4,806	-	
実績値	t/年	6,356	5,903	5,298	4,790	4,581	95.6	77.6%		
紙資源	実績値	t/年	3,599	3,132	2,797	2,604	2,345	90.1	74.9%	
金属資源	実績値	t/年	478	457	457	478	500	104.6	109.4%	
ガラスびん	実績値	t/年	404	391	396	378	367	97.1	93.9%	
ペットボトル	実績値	t/年	53	50	46	47	45	95.7	90.0%	
プラ資源	実績値	t/年	1,648	1,693	1,505	1,260	1,290	102.4	76.2%	
特定ごみ	実績値	t/年	26	32	24	23	34	147.8	106.3%	
生ごみ	実績値	t/年	148	148	73	0	0	-		
再資源化率 (B/C)	計画値	%	35.1	35.2	26.9	25.5	25.1	-		
実績値	%		30.1	28.6	26.4	23.5	22.2	-		
一人あたりごみの収集量 (家庭系一般廃棄物)	実績値	kg/人・年	202.3	198.8	195.4	200.5	204.5	102.0	102.9%	
処分ごみ	実績値	kg/人・年	141.3	141.9	143.8	153.5	159.0	103.6	112.1%	
	燃やすごみ	実績値	kg/人・年	120.6	120.5	130.4	143.8	148.4	103.2	123.2%
埋立ごみ	実績値	kg/人・年	20.7	21.3	13.4	9.7	10.6	109.3	49.8%	
資源ごみ	実績値	kg/人・年	61.0	57.0	51.6	47.0	45.5	96.8	79.8%	

*住民基本台帳人口に外国人含む

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成29年度~32年度)による

※平成29年9月から稲葉クリーンセンターが稼働(プラスチック系、皮革類が燃やすごみに変更)、同時に家庭生ごみ分別収集推進事業が終了

年度別ごみ量の推移



2 分析

令和元年度のごみの収集量(家庭系一般廃棄物)の合計は20,591トンで、前年度対比170トン、0.8%の増加となりました。「飯田市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」(平成29年度～令和3年度)における計画値19,151トンとの比較では、1,440トン上回りました。

(1) 処分ごみについて

平成29年9月、ごみ焼却施設の更新(桐林クリーンセンターから稲葉クリーンセンターへ)に伴い、ごみ分別区分を変更。ビニール・プラスチック・ゴム類、皮革など、従前の埋立ごみが燃やすごみに移行した結果、埋立ごみが減少(同48.1%)し、燃やすごみは増加しました。(対28年度比119.7%)、

この燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は16,010トンで、前年度対比379トン、2.4%の増加となっています。この処分ごみは例年微増微減を繰り返しており、平成29年度からこの3年間は、増加傾向が続いています。

(2) 資源ごみについて

資源ごみの収集量は4,581トンで、前年度対比209トン、4.4%の減少となりました。ペットボトルとガラスびんの回収量はやや減、金属はやや増、の傾向です。紙資源の収集量が前年度対比9.9%と大きく減少しており、市内大型店舗での店頭回収が、市民生活に浸透している様子が伺えます。

前年度大きく減少の見られたプラ資源(プラスチック製容器包装)の回収量ですが、収集量は1,290トンと前年度対比30トンの微増で、少し持ち直してきました。一旦小型化したプラ資源の指定袋を、従前の大型サイズに復元するなどの施策の効果と思われる。

(3) 再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集総量で除した再資源化率は22.2%と、前年度より1.3ポイント減少しています。処分ごみの増加、紙資源の収集量の減少が大きく数値に影響しています。

(4) 一人あたりごみの収集量について

4.0kg、2%増加しています。燃やすごみが増加する一方で、埋立ごみと資源ごみが減少して相殺される形ですが、燃やすごみの増加幅が大きくなっています。

3 課題と今後の取り組み

燃やすごみの組成調査を行うと、資源化可能な「紙類」、「プラ資源」の混入が多くみられます。これら「紙類」「プラ資源」の資源としての分別排出の促進が課題です。

市では分別回収を行った各種「資源ごみ」は、は再資源化するルートを確立しており、正しく分別排出いただければ、一層の「処分ごみ」減少につなげることができます。

「ごみリサイクルカレンダー」や「分別ガイドブック」といった既存の広報資材に加え、広報いいたの特集記事、映像媒体による資源化推進の啓発、新たに開始した「ごみ分別アプリ」の活用、そして各地区環境衛生担当委員会と協働して各地区におけるごみ分別学習会を開催するなど、多面的な啓発活動を粘り強く進めてまいります。

また、燃やすごみの中で比重の大きい「生ごみ」の減量のため、生ごみ処理機購入費補助事業を強化して一層の普及を図ります。

一方、ごみの排出として数字を示していませんが、燃やすごみの処理結果生じる「焼却灰」約2,000トン/年はこれまで最終処分場で全量埋め立ててきましたが、内2/3を令和元年度から再資源化のため外部へ搬出を始めました。灰排出の状況に応じ、今後も事業継続していきます。

12 分科会意見交換会におけるテーマについて

第1分科会（総務委員会）①

<p>テーマ</p>	<p>市民が誇りを持てる「環境モデル都市」「環境文化都市」の実現に向けて、 ～環境について大人も子どもも互いに学び合い、 共に実践する飯田市に～</p>
<p>テーマに係る 課題（背景）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響もあって、地方で生活することへの気運が高まりつつありますが、人口減少社会においてこれまでも各自治体に移住定住促進に躍起になって取り組んできています。移住定住を促進する為には、自治体の持つ強みを磨き上げ、特化させ、それをブランドとして発信していく必要がありますが、それだけでは足りず、そのブランドを住民がしっかりと認識し、誇りにまで高める必要があります。（シビックプライドの醸成） ・総務委員会では、このような考えの下、昨年の議会報告会において「市民が誇りを持てる『環境モデル都市』『環境文化都市』の実現」に向けて、まずは「身近な環境問題について」意見交換をさせていただきました。それを受けて、もう少し掘り下げたご意見を伺うと同時に、各地区の環境への取組をお聞きしたいとの思いから、2月から3月にかけて17地区のまちづくり委員会の皆様方と「ゴミを捨てにくい環境づくり」をテーマに意見交換会を行い、300を超える貴重なご意見を伺うことができました。意見交換会からは、各地区がそれぞれ地域の実情に合わせて環境に対し熱心に取り組まれていることを知ることができ、また「好事例の横展開」「数値や成果の見える化」「子どもたちの取り組み」など幾つかのキーワードを見出すことができました。また「リニアが開通して駅を降り立った時に『ゴミのないまち』と言ってもらいたい。」など、将来の飯田市の姿を思い描いて活動されておられることも教えていただきました。頂いたご意見につきましては「ポイ捨て・不法投棄の現状」「ゴミ出しや集積所関連」「分別に関する事」など11の区分に分類し、それぞれの項目について担当課との勉強会を重ねて参りました。今回は、それらの内容についてのご報告と共に、昨年から一步進めて、「市民が誇りを持てる『環境モデル都市』『環境文化都市』にどうしたら近づけるか、「環境について大人も子どもも互いに学び合い、共に実践する飯田市」をどうしたら実現できるか、という観点から前述のキーワードに着目しての意見交換をさせていただきたいと思います。
<p>意見交換会で 話し合いたい点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先ずは、17地区との意見交換会を受けて担当課と行った勉強会の内容についてご報告させていただき、それについてのご質問、ご意見をお聞きしたいと思います。 ・3つのキーワードについて、「好事例の横展開」では、他地区の事例を知る機会があるか、どうしたら横展開が図れるか、「数値や成果の見える化」では、環境に対し広く市民の皆様が日常生活での取り組みを進めるために、市民の皆様の環境に対するモチベーションを上げるにはどんなものが見える化することが効果的か、また、将来この地域を担う「子どもたちの取り組み」について、子どもたちの取り組みが

	<p>大人の行動に影響を与えるのではないかと、という視点から地域や学校として何が出来るか、といった点などについて意見交換をさせていただきたいと考えています。その上で、飯田市の目指すべき一つの姿に対する委員会の考え方についてご参加頂いた皆様のお考えをお聞きしたいと思ひます。</p>
--	--

第1分科会（総務委員会）②（遠山ブロックのみ）

テーマ	<p>市民が安心してらせる防災・減災のまちづくり ～今後も予想される、豪雨災害における被害を最小限にとどめるには～</p>
テーマに係る課題（背景）	<p>・地球温暖化に起因するといわれる異常気象で、近年日本の各地で豪雨災害が多発しています。県内でも、昨年は台風19号により東北信地方に甚大な被害が発生し、本年は6月末からの三六災の雨量を超えたとされる大雨が、市内各地に千箇所以上の被害をもたらしたうえ、7月12日にはとうとう市民の生命が失われる事態が発生してしまいました。国も自治体も、限られた予算の中でハード面の整備を進めてきてはいますが、気象の変化のスピードにはとても追いついていないのが実情で、このままいくと豪雨災害はいつどこで起きても不思議のないのが現実です。このような状況にあって、最優先されるべきは「命を守る」ことであり、今回のような事態を二度と起こしてはなりません。そのためには、自然災害に対する日頃からの備えが求められており、自助・共助・公助それぞれの役割がしっかりと果たされることが重要です。これまで人的被害が発生する度に言われていることは、国や自治体が発する情報提供のあり方や伝達手段と、それを受けとめる住民の意識の持ち方です。令和2年7月豪雨では長野県に初めて大雨特別警報が出され、飯田市では7月8日に市内全域に「警戒レベル4の避難勧告」が出されましたが、この警報や勧告は市民にしっかりと伝わったのかどうか、どう受けとめたのか、避難行動につながったのかどうか、これからも予想される自然災害における被害を最小限に留めるためにも、今一度、自助・共助・公助のあり方を見直す機会としたいと思ひます。</p>
意見交換会で話し合いたい点	<ul style="list-style-type: none"> ・自助としての備えはどうか、例えば自治体から発せられる情報はしっかりと伝わっているか、警戒情報や避難勧告、避難指示等の理解は進んでいるか、避難勧告、避難指示が出された時に、迅速な行動がとれるか。 ・共助の仕組みは、いざという時に機能するか。 ・公助で不足していると思われる点は何か。これらについて、現状を教えてください意見交換をさせていただければと思ひます。
参加を要望する団体	未定